

# 2021年度 TMSナビ ストレスチェックの結果に関する調査②

2022年8月25日

## 全体の総合リスクは 全国平均100よりも良好な92であった

(対象者243,729名中、有効回答218,634名)

### 1.導入企業全体の健康リスク

- 全体の健康リスクは量・コントロールよりも職場の支援リスクの方が良好

集団名	対象者数 (人)	有効回答数 (人)	量・コントロール リスク	職場の 支援リスク	総合リスク
全体	243,729	218,634	98	94	92
男性	187,307	166,884	99	93	92
女性	56,422	51,750	99	89	88

### 2.年代別健康リスク比較

- 20代は職場の支援リスクが、60代以上は量・コントロールリスクが良好

年代	対象者数 (人)	有効回答数 (人)	量・コントロール リスク	職場の 支援リスク	総合リスク
20代	44,980	40,674	100	85	85
30代	53,981	48,560	103	93	95
40代	66,064	59,630	101	97	97
50代	57,971	51,855	96	99	95
60代以上	18,350	15,861	84	97	81

### 3.残業時間別健康リスク比較

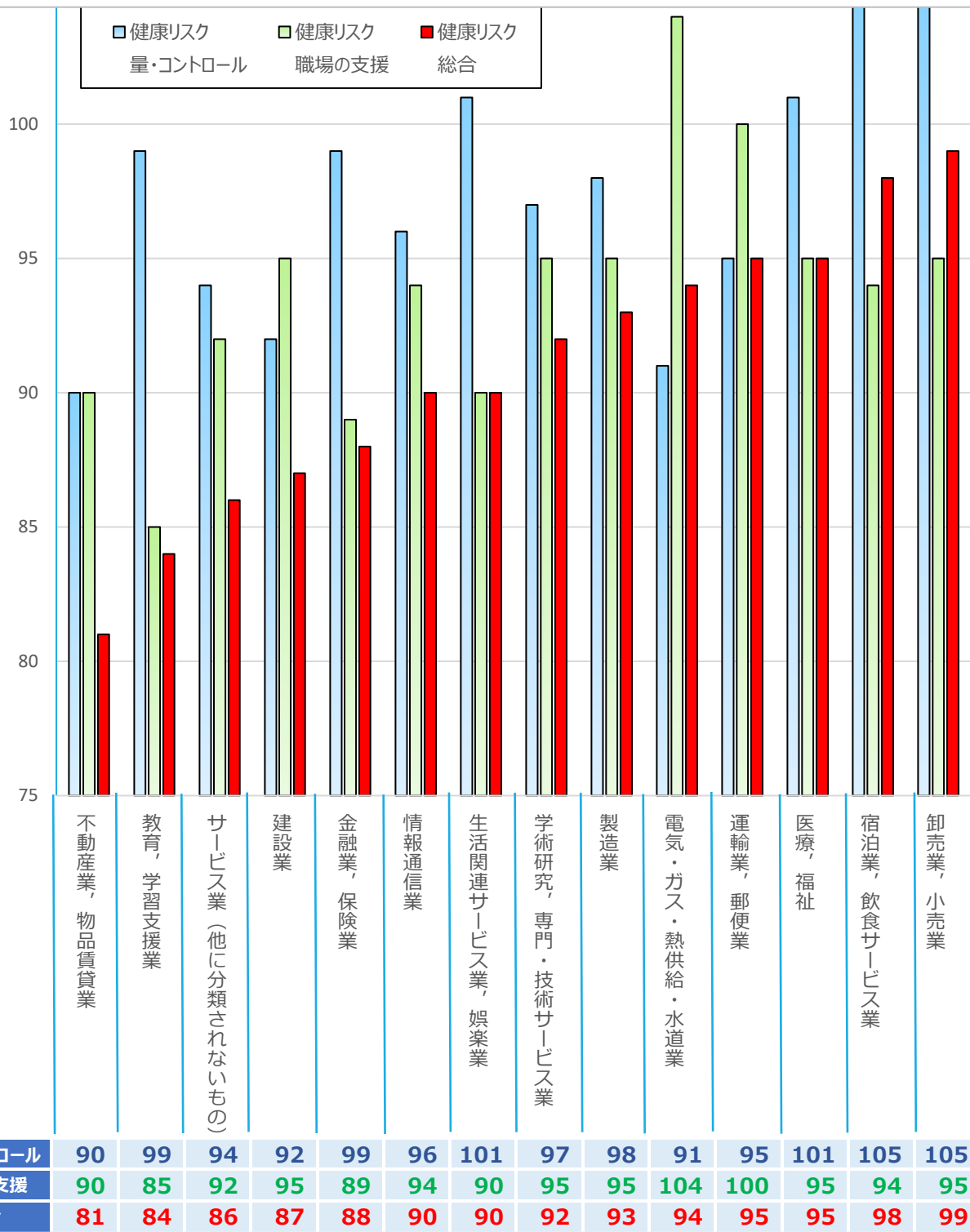
- 21時間以上では、量・コントロールリスクに大きな差はない

月平均残業時間	有効回答数 (人)	量・コントロール リスク	職場の 支援リスク	総合リスク
0～10時間	64,640	89	96	85
11～20時間	34,344	99	93	92
21～30時間	30,021	105	93	97
31～40時間	22,318	107	93	99
41～45時間	11,063	108	93	100
46～50時間	5,604	105	94	98
51時間以上	12,214	107	96	102

## 4.業種別健康リスク比較

※業種分類は日本標準産業分類を使用

- 総合リスクが最も高い業種は「卸売業・小売業」（99）、次いで「宿泊業・飲食サービス業」（98）がほぼ同様の結果であった。いずれも、量・コントロールリスクが全国平均の100を超える結果であった。
- 一方、総合リスクが最も低い業種は「不動産業・物品賃貸業」であった。量・コントロールリスク、職場支援リスクともに良好であった。



(注1)本調査はデータ利用の許可を頂いた団体及び企業のデータのみ分析対象としています

(注2)本調査の数値は『仕事のストレス判定図(職業性ストレス簡易調査票)』により算出しています